

反戦・反核—三里塚へ

船橋市民の会主催で

7.29船橋集会在大成功



「核戦争に反対し、憲法とくらしを守る船橋市民の会」(代表・中江昌夫船橋市議)主催による「いま反戦・反核の叫びを！」7・29映画と歌と講演集会在船橋中央公民館において開催され、船橋市民を中心に勤労千葉も含め百十名が参加しました。

第一部は、70年安保闘争の記録「怒りをうたえⅡ」の上映、第二部は、「三里塚闘争へのアピール」と「反戦をうたう」新谷のり子さんの歌に続き、第三部は軍事評論家である藤井治夫氏の「いま世界核戦争の危機が……」というテーマの講演が行われました。

緊迫する三里塚—国鉄から決戦勝利への決意表明

安保闘争の記録上映後、船橋に在住する市民から戦前の治安弾圧のすさまじい報告がされました。そして三里塚現地から、成田用水着工をめぐる、政府・権力・空港公団、脱落派一体となった攻撃と真向から対決して連日実力阻止闘争に決起している反対同盟の萩原勇一氏と秋葉義光氏がかけつけ、代表して萩原氏より「成田用水が警察権力を前面におしたてて強行されようとしている。成田用水は農民だましの攻撃であり、用地を守るためにも何んとしても阻止しなければならぬ。勝利するまで闘う」と熱烈なアピールがなされ、全参加者は圧倒的な拍手で共に闘うことを確認しました。

続いて、勤労千葉から水野副委員長が発言にたち、「今日国鉄労働者にかけられている攻撃は、中曽根の軍事大国化・改憲にむけた攻撃である。労働運動の今日の否定的な現状をつき破って、中曽根の戦争政策と対決し、すべての住民闘争の最先頭で闘う三里塚反対同盟と固く連帯して闘う。労働者としての尊厳をかけて、10・10には全力で決起する」と決意を述べました。



続いての「反戦の歌」の中で、新谷のり子さんは、昨年の8月、中東—闘うパレスチナ人のキャンプを激励訪問したときの報告をされました。戦争の傷跡も生々しい状況の中での子供たちの「ヒロシマ・ナガサキとくらべれば」との言葉に感動したこと—また「反戦歌手」としてデビューした一九六九年三月三〇日をとりまく当時の闘いの日的情況が自分の生き方を決定づけたこと等を語りながら、多くの歌の最後を「フランシヌの場合は……」でしめくられ、満場は熱い感激の拍手につつまれました。

船橋に反戦

反核「草の根運動」を

第三部では、軍事評論家・藤井治夫氏が講演され「核戦争は実感できるようになってから反対したのではもう手遅れだ。船橋市をはじめ全国でほり起こされてきている反核の闘いは極めて重要だ」と訴えました。また、レーガンが「実際に6カ月間の核戦争をやつて勝つための戦略」を画策し、一方では「ソ連脅威論」のデマをあおりたてヨーロッパやアジアへのパッシングⅡやトマホークの配備を強行しているが、これは相手の心臓部を「先制第一撃で攻撃する核戦略」であり、ヨーロッパやアジアのミサイル配備地域が最も危険な報復核攻撃の標的となることを暴露されました。

また藤井氏は自衛隊発行の宣伝パンフを見せながら、その中に女性の写真を載せて「国を守ることは女性の肌を守ることである」などと国防キャンペーンをしていることを暴露・弾劾し、「だまされたらあととどろきできない。皆さんと一緒に頑張る」と提起されました。

中江代表、

四つの課題を提起



全国被爆者青年同盟から決意表明がなされたのち、最後に主催者を代表して中江昌夫船橋市議から、①トマホーク実戦配備反対、②下総基地夜間使用反対、③三里塚闘争勝利、④船橋の反核平和都市宣言の実現を軸とした「船橋市民の会運動の四つの柱」が提起され、全参加者の拍手で確認されました。

第一部—第三部まで長時間に及ぶ集会は、最後に団結ガンバローを三唱し、大成功のうちに終了しました。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎

